




第17回 中・四国地協 DANS プレ企画ニュース

3月20日、学生19名の参加でDANSプレ企画を開催しました。5月2日の本番の前に、今回は、ALSという病気やそれをとりまく現状を学び、学生同士で意見交換しました。講師は、地元鳥取市在住の中山和夫さん。自身も難病患者ですが、妻の美智子さんが5年前にALSを発症・闘病中です。

2021年3月 発行担当:香川民医連  川田

『患者の立場に立つ看護』とは一? 皆で話し合った

●講師のお話●冒頭、今回の講師の中山さん夫妻が登場した番組NHK「ゆく年、くる年」のVTRを観ました。ロボットを遠隔操作してお2人は病室から初もうでしていました。和夫さん(写真)は次のようなお話を、看護学生に向けてしてくれました。



人工呼吸器をつける・つけないという意味を確認される重大な場面では、主治医から涙ながらに「生きてほしい」と話があったそうです。そこにはALS患者さんの7割が延命を諦めている現状がありました。

それに対して中山さんは言われます。「人に迷惑をかけるから、そこまで生きていたくない」そう言われたから、そうすることが本人の意思を尊重しているの?もしその人がALSでなかったら?ALS患者さんが周りに迷惑をかけていると感じないようなきちんとした社会の制度があったとしたら?本音は『生きたい』ののだと。

これから看護師になる学生みなさんに、患者さんが発する表面的な言葉の裏に隠されている思いを考えてほしい、と話されました。



参加した
看護学生た
ちの感想♪

- ・グループワークで「看護師自身が制度などを知らない」と患者や家族に情報提供できない。だから知識が必要」との意見に共感。看護のだけじゃなく、支援制度のことなどもしっかりと知識をつけたい。
- ・印象に残ったのは、表面的な部分だけでなく言葉の裏に隠されていることを深く考える重要性についてです。
- ・言葉の裏にある、患者の想いをくみ取れるようになりたい。また、尊厳を守るような看護を実践したい。
- ・オリヒメアイはメガネと変わらないと聞き、障害に対する考え方が変わった。
- ・生きたいと思う気持ちを支えるってどんなことだろう、患者さんの本当の気持ちって何だろうなど中山さんの話から考えるとともに、もし自分がALSだったら、家族が、友達が、恋人がALSだったら...と様々な視点で「患者の立場に立つ」を追究することができた。

DANS 本番は、5月2日(日)9:30~12:50

各県の看護実践をレポートする事前課題の締め切りは **4/16** です。
学校の同級生や先輩・後輩も誘って参加しようね!